

～浜公園のまわりをきれいに～
少林寺拳法拳士による清掃活動 9/6 (日)



浜公園周辺で、四国中央市少林寺拳法協会の拳士や家族らによるボランティア清掃活動が行われました。清掃活動には、幼稚園児から60歳を超える方までの60人以上が集まり、各自が軍手やごみ袋を持って、公園内のサブグラウンドの草引き・清掃や周辺道路のごみ拾いなどを行いました。

～日頃の努力の成果～
そろばん珠算競技大会で好成績！ 9/8 (火)



中田珠算塾（中田綾子代表）に通う小学生と中学生の5人が、第48回雲州そろばん珠算競技大会で上位に入賞したことを報告するため、市長を表敬訪問しました。5人は、小学2年生以下の団体と個人で優勝、中学生以上のフラッシュ暗算で準優勝など、それぞれ優秀な成績を収めました。

～市内各地で敬老会～
市内最高齢者にお祝い状を贈呈



敬老の日になみ、市内各地で敬老会が行われました。また、市内の男性最高齢者である上分町の合田唯二郎さん（105歳）と、女性最高齢者である中之庄町の河端サハエさん（110歳）に、篠原市長と篠永市議会議長からお祝い状や記念品が手渡され、長寿をお祝いしました。

～国体会場周辺美化活動～
「カントリー大作戦」 9/6 (日)



ボーイスカウト四国中央第2団が毎年開催している清掃活動「カントリー大作戦」が、えひめ国体四国中央市実行委員会と共同で開催されました。参加した約40人は、えひめ国体のフェンシングと空手道の競技会場である伊予三島運動公園周辺の美化活動としてカン拾いなどを行いました。

～熱き戦いへ いざ出陣～
戦国水鉄砲！「関川の戦い」 8/23 (日)



関川河川敷ふるさと広場で、戦国水鉄砲！「関川の戦い」が行われました。参加した市内の小学生15チーム81人は、試合開始の笛が鳴り響くと、相手の動きを見ながらじっくりと攻めたり、素早い動きで一気に攻め込んだりとさまざまな駆け引きをしながら、白熱した戦いを繰り広げていました。

～ギョギョツとびっくり！～
さかなクントークショー 8/23 (日)



市民会館川之江会館で、テレビでおなじみの東京海洋大学客員准教授のさかなクンによるトークショーが開催されました。トークショーでは、スライドを使いながら海の生き物たちの生態について解説したり、さかなクンが描く魚の名前当てクイズをしたりして、訪れたおよそ450人の観客は海の生き物について学んでいました。

～市内小・中・高校生の11選手～
柔道全国大会に出場！ 8/27 (木)



市内の小・中・高校生の総勢11人が、柔道全国大会への出場報告のため、市長を表敬訪問しました。選手たちはそれぞれ、県大会や四国大会などで優勝または準優勝のすばらしい成績を残し、全国大会への出場権を勝ち取りました。選手たちは、全国大会に向けた抱負やこれからの目標を力強く話していました。

～県や関係機関との連携強化～
合同防災訓練 9/1 (火)



地震と豪雨による複合災害が同時に発生したと想定して、県と本市による合同防災訓練が行われました。訓練は、93機関・約5,500人が参加して行われ、主会場のジャジャうまフィールドでは、埋没車両や倒壊家屋からの救出・救護訓練やライフライン確保訓練などを行い、近隣から参加した救助隊員などと連携を深めました。

全国小学生陸上競技
交流大会に出場 8/19 (水) まちの話題



VIVID陸上競技クラブに所属する横山拓くん（中曽根小6年）が、全国小学生陸上競技交流大会出場報告に市長を表敬訪問しました。横山くんは、7月に開催された同大会県最終選考会の走り高跳びで1m34を跳んで優勝し、「全国大会では、8位入賞を目指して頑張ります」と力強く抱負を述べました。

～「食」への感謝の思いを込めて～
学校給食米収穫祭 8/22 (土)



土居町津根の長津干拓で市学校給食米収穫祭が行われ、参加した市内の小学生と保護者ら約300人が、手作業での稲刈りのほか、足踏み脱穀機や唐箕などを体験しました。また、おにぎりパーティーでは、自分で握ったおにぎりをおいしそうにほお張り、「食」と「農」のつながりについて、家族で楽しみながら学んでいました。

～精いっぱい演技に拍手喝采～
みすゞ塾 小さな発表会 2015 8/22・23



中之庄公民館で、みすゞ塾の小さな発表会2015が開催されました。今回の発表会は、田辺国武さんが当市で開催する「みすゞ塾」で練習に励んできた子どもたちと、劇団「座・東京みかん」のみなさんが一緒に行われました。塾生たちは、練習の成果を発揮し、約180人の観客の前で堂々と歌や踊りを披露しました。

～一足早い秋の訪れ～
翠波高原コスモスまつり 8/23 (日)



翠波高原で恒例のコスモスまつりが開催されました。この日のコスモスは5分咲き程でしたが、市内外から訪れた多くの家族連れや行楽客などが園内を散策していました。また会場では、音楽ステージや紙相撲大会、市内の物産販売、お楽しみ抽選会などが行われ、来場者は、イベントやバザーなどを楽しんでいました。

「散りぬべき 時知りてこそ 世の中の 花も花なれ 人も人なれ」
これは、戦国時代に、かの絶世の美女と言われた細川ガラシャさんの辞世の句である。
運命に抗して、自ら死を決断したものであるが、その心根が後世の人々に愛されたのであろう。
歳時記という、もともと俳句の世界から来たものと言われているが、季節を表す言葉がある。
暑い暑いと言っていたのが嘘のように、お布団を被って寝る時期が来た。
夏祭りがあり、敬老会があり、その間にも台風が来たりしながらも、秋祭りの季節がやって来た。
秋祭りは、五穀豊穣の感謝祭であり、次年度の祈念祭でもある。人工的に造ったイベントとは違い、土着性も持っている。
太鼓台の話になったら、もう他のことは目にも耳にも入らないというタイプは、私の周りにもわんざといえる。
農耕文化に裏打ちされた情感が連綿として受け継がれている秋祭りは、その他の祭りとは、自然神の存在によって、決定的に異なる。
そうは理屈を言ってみても、自然のサイクルは、人の思惑など無視して淡々と進行して行く。
それがまた、ものの哀れを表すことになるのだらうと思う。

市長の
ひとりごと



四国中央市長
篠原 実

テーマ
歳時記